

# 子育て世帯にかかる経済的負担の軽減（砥部町）

## 【取組概要】

砥部町では子育て世帯にかかる経済的負担を軽減するため、法定助成に加え、町独自の取組として以下の助成を行います。

### 【不妊治療支援（平成27年4月～）】

愛媛県が実施している特定不妊治療費助成に上乗せする形で、50,000円を上限とし、特定不妊治療にかかる費用を助成します。

### 【乳児支援（平成27年9月～）】

満1歳までの乳児に対し、おむつ購入費を助成（月額2,000円）します。

### 【未就学児支援（平成27年4月～）】

同一世帯から2人以上の未就学児が保育所・幼稚園等を利用している場合に年齢の一番高い未就学児を第1子とし、第2子は保育料を二分の1、第3子以降は保育料無償化を実施していますが、小学校3年生までの児童を第1子として認めることにより多子世帯の範囲を拡張します。

### 【就学児支援（平成27年8月～）】

これまで小学生の通院・入院及び中学生の入院にかかる医療費について、近隣市町に先駆け無償化を実施していましたが、今年度は中学生の通院にかかる自己負担医療費についても所得制限を設けず無償化します。

これらの取組により、子育て世帯にかかる経済的負担を軽減し、若い世代が安心して結婚し、子どもを生み育てることのできるようになるため、人口問題対策（少子化対策）やこどもの健全育成・児童福祉の向上につながるものと期待しています。

## 【取組のポイント（特徴・先進性・特色など）】

### ★★★子育てのまちTobeを目指して★★★

社人研の調査では、子どもを産みたくても産めない理由の第1位が経済的な問題となっています。また、不妊に悩む夫婦の中には経済的な理由から不妊治療を諦める夫婦も少なくありません。

[To be]： やがて～になる、将来の、などの意味を持つ英熟語は「とべ」とも読めます。

砥部町では、砥部町の将来を担う無限の可能性を持った子どもを産みたい・育てたいと思う夫婦の希望を、経済的負担の軽減という方法で支援し、『子育てのまち』を目指します。

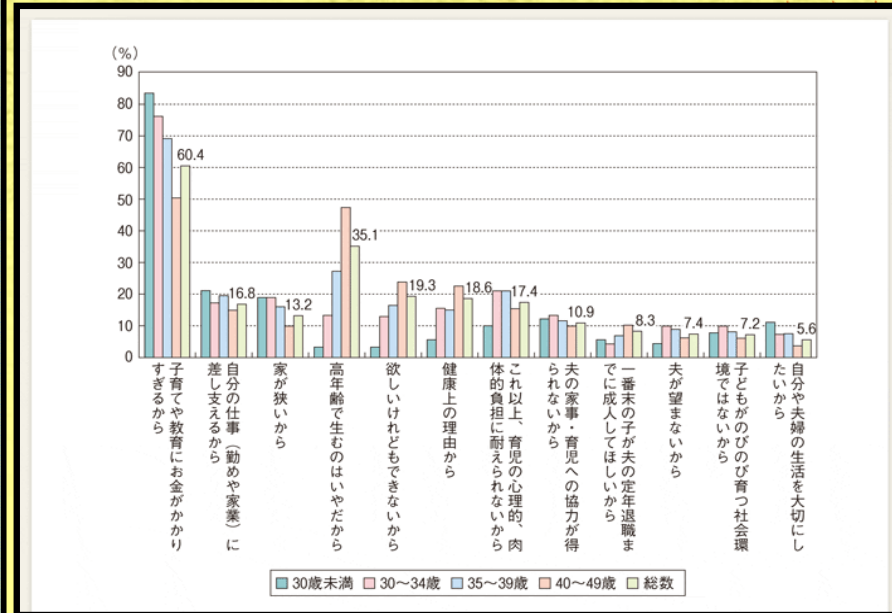
## 【今後の構想】

### ★★★継続した支援★★★

乳児支援については今後、おむつに限らず育児用品全般の購入費助成への拡大を検討しています。また、中学生までのインフルエンザ予防接種費用助成など、妊娠・出産・子どもの健康などに関する支援の充実を順次検討していきます。

子育てに関する絶え間ない支援により、住民が安心して子育てをすることができる環境を整備していきます。

人口 21,736 人  
担当部署 保険健康課 学校教育課  
介護福祉課  
事業実施期間 27年4月～



妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由  
【出典】国立社会保障・人口問題研究所調査（2010年）



砥部町子ども医療費受給資格証